京都
KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

鳥居はなぜ赤い？

新年のご挨拶を、と思いつつ平成三十年もはや二月。二月といえば初午、ということで、本年最初の不思議はお稲荷さんのお話です。

皆さんはお稲荷さんの鳥居がなぜ赤いのかご存じですか？魔除け？　そうですね。赤は火に通じ、火は魔を祓うため魔除けの力を持つのは頷けます。しかし魔を除けるならすべての神社がそうであるべきですが、例えば伊勢神宮や出雲大社などはまったく赤くありません。お稲荷さんの赤色は、他に理由がありそうですね。

青空に映える伏見稲荷の朱

鳥居や社殿を赤く染めることを「施朱」というそうです。

全国稲荷社の総本宮・伏見稲荷大社は、渡来系の氏族である秦氏によって創建されました。稲荷山へのご鎮座は和銅四年（七一一）のこととされます。伏見と秦氏の関係は奈良時代に遡り、欽明天皇が即位前に秦大津父という者を登用すれば天皇になれるという夢を見ます。探すと山背国紀伊郡深草の里で見つかりました。大津父は伊勢からの仕事の帰りで、この仕事は都の品物と伊勢で産する水銀の交易と指摘されています。実はこの水銀を使って金めっきなどを行うアマルガム鍍金法をわが国に伝えたのが秦氏。かの東大寺大仏を荘厳した技術で、大仏落慶を祝って宇佐から八幡神を勧請したのも秦氏です。

『今昔物語集』には伊勢と京の間を往来する水銀商や、伊勢で水銀を採掘し落盤事故にあう話が出てきます。伊勢の水銀は有名でした。この水銀を使う秦氏が欽明天皇の大蔵大臣となり、その技術で巨富を築き、桓武天皇による平安京造都に尽力をしたのです。

赤くない伊勢神宮、宇治橋の大鳥居

水銀は硫黄と化合して硫化水銀となります。これが辰砂。丹色と言われる赤色の顔料です。この辰砂を産する地に丹生の名が多いのも当然です。秦氏はこの岩絵具を自らが創建した稲荷社に施し、わが氏族の証しとしたと思われるのです。史料の根拠はありません。しかし水銀の観点から稲荷史を検証すべきと指摘する学者もいます。鳥居や社殿だけでなく本殿にも施朱を行うのが伏見稲荷。カモ社や祇園社など渡来系氏族が奉じた神社はそれに呼応したと思われます。現在の稲荷大社の本殿は明応八年（一四九九）に修造されたもの。五百年、青空に映え続ける朱色を見ながら、私もまたその説を信じる一人です。

「あかあかと　ただあかあかと　照りゐれば　伏見稲荷の神と思ひぬ」（前川佐美雄）

（京都学園大学非常勤講師　堤 勇二）

朱色が鮮やかな稲荷大社本殿

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。
京都を知ることは日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定®
京都・観光文化検定試験
京都商工会議所